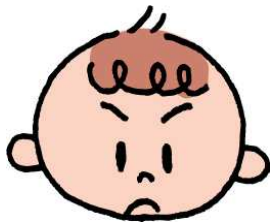


ちよい待ち、保育所民営化！ 進めかたに異議があります



お金がないからといって子供を犠牲にしないで！
子供の幸せを考え、緩やかな移行を行ってください
私たちの声を聞かない市のやり方はおかしい！

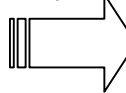
豊中市 桜塚保育所 民営化を考える会
<http://homepage3.nifty.com/moomoo/sakura/>

つらい思いをするのは、今、通っている子どもたち

私たち保護者も「質の高い保育をする民間保育所」であれば受け入れられるのです。
当事者の立場で、基準を作ったどの民間保育所にするのか、私たちにも選ばせてほしい。
なのに、市は「選考委員会には保護者は入れない」「選定条件は公開しない」
今のままでは、当事者の意見が取り入れられる保証がない＝質の高さが保障できない、
しわ寄せは子どもに、ということになります。保護者は毎日不安でたまりません。

■他市の「質の低下した」民営化の例

経験の少ない保育士が多く、子どもをきちんと見たりクラスをまとめる力が不足
一年で7人も8人も保育士が入れ替わりクラス運営が崩壊



「おなかが痛い、手が痛い」と訴え保育所へ行きたがらなくなる子ども、
高年齢児でさえ親とはなれるときに泣き出す子ども。



なぜ、子どもたちの負担軽減より、コスト減が優先されるの？

なぜ、市のむだづかいのつけが子どもたちにまわってくるの？

—子どものために必要なお金が削られて大型事業に費やされる実態—

市は「子どもの幸せを第一に」と謳いながら、「できるだけ早く民営化して人件費を削減し、在宅時支援サービスにお金をかけたい」と言い、保育士は総入れ替え、引継ぎは通常保育を行いながら片手間の1ヶ月。環境の激変による子どもへのダメージは必至です。

その一方で、道路事業は通常よりも豪華な舗装、蛍池再開発事業の新ビルでは部屋を対民間と比べ高価格で買い取ったりムダだらけ。

無駄な支出を削り、子どもたちが安心して新しい保育所に慣れるための予算と時間を十分に作り、緩やかな移行を行うのは市の当然の義務です。

◎12月議会で可決されない限り民営化は決定ではありません！◎